

【認知症対応型共同生活介護用】

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月18日

【評価実施概要】

事業所番号	0772500393		
法人名	社会福祉法人にしあいつ福祉会		
事業所名	グループホーム のぞみ		
所在地	福島県耶麻郡西会津町登世島田畑乙2042番地60 (電話)0241-48-1583		
評価機関名	福島県社会福祉協議会		
所在地	福島県福島市渡利七社宮111		
訪問調査日	H20.11.18	評価確定日	H20.12.25

【情報提供票より】(平成20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年4月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	8人	常勤7人, 非常勤1人, 常勤換算7.4人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	150円	昼食	350円
	夕食	280円	おやつ	円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	1名	要介護2		1名	
要介護3	7名	要介護4			
要介護5		要支援2			
年齢	平均 85.4歳	最低	71歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	西会津診療所、群岡診療所
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

公園に隣接する町の保健、医療、福祉ゾーンの一角に位置している。ホームには広い畑があり、職員と一緒に育てた野菜を食材として利用している。外部評価での改善課題についても、チームで作る利用者本位の介護計画、現状に即した介護計画の見直しなどが改善され、また、利用者の名前の呼び方、利用者の行動を否定しないなどケアサービスも向上している。そのことが利用者が明るく、のびのびとして過ごしていることに表れている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	運営推進会議を活かした取り組み、チームでつくる利用者本位の介護計画、現状に即した介護計画の見直し等、職員会議で改善に向けた話し合いを行い、利用者本位の介護計画、見直し等が改善されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員で取り組み、自らのケアサービスの見直しの場となり、利用者の自宅訪問を実施することなどサービスの質の向上につながっている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5)
	運営推進会議委員の委嘱がなされ、11月中に開催されることになった。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の訪問時に意見や要望を聞くように努め、ケース記録に記録し、全体で共有化するものは申し送りノートを活用している。また家族会との意見交換会を行っている。出された意見等は職員会議で話し合い、転倒防止のためすべり止めの靴下を着用するようにするなどケアサービスに反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の文化祭、お祭り、敬老会等に参加したり、保育園の子ども達とジャガイモ堀を行うなど地域住民との積極的な交流を図っている。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	常に利用者の立場に立ったサービスの提供に努め、「やさしい笑顔で、やさしい心で、やさしい目で」を理念としている。積極的に地域との交流を図っているが、地域密着型サービスの役割を反映した理念として明文化されていない。		地域住民との積極的な交流を図るということ等を重要事項説明書等に基本理念として明文化するようにしてほしい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	廊下に理念を掲示するとともに、申し送り時に理念の確認を行っている。理念に基づいた実践が行われているか職員会議の中で振り返りの場を持っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の文化祭、お祭り、敬老会等に参加したり、保育所の子ども達とジャガイモ堀を行うなど地域住民との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全員で行った結果、自らのケアサービスの見直しの場となり、利用者の自宅訪問を実施することを確認するなどサービスの向上につながっている。外部評価の結果を職員会議で報告し、改善に向けて話し合っている。		改善計画シートを作成し、改善計画の進行管理を行うことを検討してほしい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議委員を委嘱し、11月中に開催することになった。</p>		<p>ホ - ムの課題を運営推進会議と相談しながら進めていくためにも定期的な開催に努めてほしい。</p>
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族会(年3回)の開催時や面会時に、本人の状況、金銭管理等を報告している。ホ - ムでの暮らしぶりは町のケ - プルテレビや広報誌でも伝えている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の訪問時に意見等を聞き、ケ - ス記録に記入し、全体で共有するものは申し送りノートを活用している。家族会でも意見交換を行い、出された意見中で、転倒防止のためすべり止めの靴下をはくようにしたなどケアサービスに活かしている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>正職員(2名)のみの異動で、臨時職員の異動はない。異動の場合は、申し送りや引継ぎの面で影響のないよう配慮している。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に関する情報を回覧し、希望を募っているが希望者がいない場合は管理者が人選し、研修を計画的に受講させるなどしている。研修報告は職員会議で行っている。法人全体でも研修を行っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グル-プホ-ム連絡協議会に加入し、研修会、見学会等に積極的に参加し、情報交換、交流を図っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)	/	/	/
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホ-ムの暮らしの中で、利用者ができることはなるべくやってもらうようにしている。居室担当制をとり、一緒にタンスの整理をしながらゆっくりと話し合い、利用者の思いに共感し、その思いに近づけるようなケアに努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、利用者の表情やつぶやきなどから把握するようにし、認知症介護研究・研修東京センタ-方式の心身情報シートに記録するようにしている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族から思いや意見を聞き、反映させるよう努めている。介護作成担当者の計画案を職員全員で話し合い、介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	居室担当者や計画作成担当者によるモニタリング、職員会議でのカンファレンスを行い、状態変化や状況に応じて、定期的な見直し、状態変化に応じた見直しを行っている。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/	/	/

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望する医師をかかりつけ医としている。基本的には家族同行の受診としているが、出来ない場合は職員が代わって受診の支援を行っている。受診結果は受診記録簿に記入し、共有化している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人の方針として、重度化や終末期の対応は行わないこととし、15日以上入院の場合は、退所となること等を契約時に説明し同意を得ている。退所に当たっては関係機関と連携し、退所後について支援を行っている。		利用者や家族の意向を確認しながら、急変時にどう対応するかや重度化に事業所としてどこまで対応できるか等について話し合いをしてほしい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の名前呼び方や言葉かけ、利用者の行動を否定しないケア等について、申し送り時や職員会議で話し合いを行っている。ケーブルテレビの放映や広報誌への掲載については家族の同意を得ている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間が人より遅い利用者や、買い物や散歩等、一人ひとりのその日の状態や思いに配慮しながら対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が育てた野菜を食材に利用したり、利用者に合わせ、調理、後片付け等を職員と一緒にやっている。食事もしみながら一緒にやっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴することが出来、入浴時間を制限せずゆっくり入浴できるよう支援している。職員配置の関係で入浴時間が午後2時から5時までとなっているが、就寝前の入浴を希望する利用者があるが対応できていない。		就寝前の入浴ができるよう、職員配置(遅番)の工夫等について引き続き検討してほしい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	ホ - ムの暮らしの中で、食事の準備や後片付け、洗濯物たたみ、ごみ出し、畑仕事などの役割を果たしてもらっている。ドライブや地域の行事への参加等の楽しみごとを利用者と話し合いながらやっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	天気の良い日は、出来るだけ近くの公園などに散歩に出かけるようにしている。毎日の食材の買い物、外食等外出する機会を積極的に取り入れている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の開閉をセンサ - で感知するようにし、日中は鍵をかけていない。外出しそうな利用者には、職員と一緒に散歩したり、玄関前のベンチに座り話を聞いたりして過ごすなど見守りながら自由な暮らしを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回法人全体で地元消防団も参加して避難訓練を実施している。グループホーム独自でも夜間想定での避難訓練、避難通報、消火訓練等を実施している。飲料水、非常食の準備はしていない。		災害時に備えて、非常用の水や食糧等を準備しておいてほしい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一週を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分の摂取量はケ-ス記録に記入し職員が情報を共有している。野菜を多く取り入れた献立とし、量より品数を多くするなど献立に工夫している。管理栄養士による勉強会を実施することになっている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	キッチンと一体となったりリビング、家庭的な雰囲気の間はホッとするスペースとなっており、周囲の見晴らしが良く四季折々の季節感を感じることが出来る。換気、光の調節も適切になされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に持ち込み品が少なくすっきりした感じがするが、家族の写真や座椅子、衣装ケース、趣味の編物の道具、習字道具等が持ち込まれ、自分の部屋らしい居心地の良さに配慮している。		

 は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム のぞみ

記入担当者名 物江 義栄

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目 を記入してから内容を記入してください。